

「日本画入門研修」 終了報告

第一支部運営委員会

2020年2月27日(木) 13:00-15:00 加島美術画廊において、「日本画入門研修」が開催されました。参加者は会員27名、委員2名合計29名で、関東地区のみならず、大阪、愛知、山梨からも参加頂きました。今回の講師は、現在は加島美術営業部に所属、これまでに画廊や遺跡発掘調査を行う埋蔵文化財調査員など長年日本美術を研究されてきた高橋広太氏。前半の講義は(13:00~13:45)「日本画の基礎」ということでその定義、特徴、画題、掛け軸や屏風などの様々な形式についてお話してくださいました。先生のお話は大変わかりやすく、実際に掛けられている掛け軸などを参照しながら具体的に解説をしてくださいました。



また、日本美術のカテゴリー別に、水墨画、禅画、狩野派と琳派の比較、円山・四条派の台頭、異色の画家、文人画や南画、墨跡などそれぞれの特徴をあげ具体的な例とともに展開していきました。

後半の講義(13:50~14:20)は最近あちらこちらで展覧会が催されている近代京都画壇についてさらに踏み込んでお話してくださいました。竹内栖鳳主宰の画塾「竹杖会」等あまりなじみのない画塾がたくさん出てきて京都画壇の奥の深さを知るとともに、もっと学びたいという気持ちを掻き立てられました。先生のお話は簡潔明瞭でどんどん引き込まれていきました。そのお話の中で古地図には江戸狩野の本拠地が現在の加島美術の場所のすぐ近くだったというエピソードを教えてください、確かに東京に江戸狩野派が存在していたことを知り感慨深いものがありました。

その後 Q&A の時間がたっぷりとあり、気になる価格決定や日本美術を保管するうえで気を付けるべきことなど様々な観点から日頃疑問に思っている日本美術に関することを質問する機会を得ました。

加島美術様を来訪しますと若冲のような大変高価な本物の掛け軸をガラス越しではなく至近距離で見ることができます。まだその素晴らしさを外国人観光客に十分に伝えきれていない日本の絵画、ガイド自らがこういった本物の作品に触れ、味わい、その感動を海外のゲストに効果的に伝えていきたいものですね。終了後も講師の高橋氏へ個人的に日本美術に関する質問が続き、参加者の皆さんの関心の高さを感じました。マスク、除菌スプレーを徹底し厳戒態勢で臨んだ開催となりましたが、それでも熱心に日本美術を学ぼうとする会員の皆さんの気概を感じました。

